

令和 4 年度幼稚園学校評価（出雲市立川跡幼稚園）

分 野	評価項目	評価の着眼点	自 己 評 価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評 価	評 価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○年度当初、園長は、職員と保護者に教育目標について説明を行い、担任は、学年の努力目標をもち、保育、基本的生活習慣、家庭との連携、人権同和教育等について重点事項や援助について明確にしていた。4月の学級懇談時に保護者にも学級経営の方針について説明をしている。 ○教育課程は、1、2学期の実践をもとに見直しを行っている。このことについても、全職員に周知するようにしなければならない。	4	4	○引き続き、年度当初、教育目標や園経営について職員や保護者に関係文書を配布、説明をし、周知を図る。 ○今年度中に、教育目標やめざす子ども像について、各年齢の特徴的な姿をあげ、幼稚園教育要領にあげられている、3つの資質・能力、育てたい10の姿で分析・共通理解を図る。補助教諭とも共有し、同じ方向を向いて保育にあたれるような方法を考えていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達 の姿から課題を捉えて保育を行っ ているか。	○担任は、月案、週案を作成し、補助教諭に配布しねらいと内容を共有している。 ○実践後には、記録をまとめ、翌日以降への援助に活かせるようにしている。全職員で園児の育ちを見守り、必要に応じて報告、連絡、相談をしたり、日常的に園児の様子を話し合ったりしながら保育にあたっている。 ○家庭とも連携を図り(面談、連絡帳、日常のやりとり等)、保育の参考になっている。	3	4	○子供の表す姿をありのまま受け止め、考察、他教諭との多面的理解、記録を通し、次への援助のあり方を見出していく。保育研究で取り入れている、ウーダループ【観察➡方向づけ➡意思決定➡実行】の考え方を取り入れ、速やかな対応ができるようにする。 ○家庭の様子を聞き、園での生活や遊びの支援のヒントにする。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実 態や課題を明確にし、計画的・組 織的に指導を行っているか。	○補助教諭やヘルパーは、市の幼児教育指導員等による保育研修を受け、意識や知識の向上に努めている。保育幼稚園課の巡回指導という機会も用いながら、子供の表す姿を多面的に捉え、課題を明確にし、必要な援助を行うように努めている。 ○他関係機関(通級指導教室等)とも連携を図っている。	3	3	○発達や支援の仕方について理解を深めることができるように、職員の研修参加を推進する。幼児やその保護者にとってよりよい方策(環境、相談等)を探っていく。全職員が幼児理解を深め、課題や支援の方法について共有できるよう話し合いの時間や場の確保に努めていく。勤務時間の異なる補助教諭との連携の仕方について工夫していく。 ○専門機関や幼児早期発達相談員との連携も密にしていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨 き、幼児に人権意識の芽生えを培 うように配慮しているか。	○4月には、同和教育指導資料19～21集一部資料について職員配付し、新規職員と職員会で話し合う場を設けた。教職員が研修会に参加したり、園での保護者研修を充実させたりすることで、大人の人権意識向上につながるようにしている。 ○大人の関わり方について話し合う場(終礼等)を設け、一人ひとりの人権感覚が高められるようにしているところである。	3	3	○園長は、人権・同和教育について課題意識をもって生活するよう職員への啓発に努める。職員は、積極的に研修会や講演会、研究会に参加し、人権意識を高められるような環境を整える。保護者研修も企画し、人権・同和教育について自分のこととして意識できるように引き続き啓発に努める。○子供のエピソードについて語り合う場を設け、園全体に温かな眼差し、人権感覚が身に付くような雰囲気作りが心がる。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促 す機会と捉え、工夫、改善してい るか。	○日頃の興味関心、遊びの延長線上に行事があり、その行事の活動を通して得た満足感・達成感も次への意欲につながっていると捉えている。行事後は必ず反省評価をし、次年度に活かすようにしている。行事後の感想から、子供の成長に喜びを感じている保護者の様子がわかった。このことは、保護者アンケート肯定的評価100%からも伺えた。	4	4	○子供が意欲的に取り組めるよう、今後も、ねらいを明確にし、子供たちの興味関心の行方を探り、成長発達にあった保育の準備、実践、振り返りに心がける。保護者には、経過や育てたい心情・意欲・態度について便りで発信することで、その年齢の特徴や期待する姿について理解してもらうことができたとと思うので継続していきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密に し、なめらかな接続に努めている か。	○同じ校区の鷹巣幼稚園と、運動遊びを通して交流ができた。○三中校区一斉取組「もりもりチャレンジ」も実施し、家庭での生活習慣確立への意識向上に努めた。○コロナ禍にあり、園児・児童の交流活動はできなかったが、体育祭総合練習見学や、校庭遊具の使用をさせてもらい、小学校生活に慣れの気持ちや期待感をもつことができた。○就学へ向けたアプローチャリキウムを園内で見直した。年中児発達相談事業や就学を機に、小学校職員が園を訪れ、子供の様子について情報共有し、連携が図れるように努めた。	3	4	○鷹巣幼稚園との交流は次年度も事前事後に協議をしながら有意義な交流にしていく。○保幼小交流の日では、各教室等を見学する機会があり、小学校へ期待感を高めるきっかけとなっていた。園児、児童のよりよい発達につながるよう柔軟な交流をしていきたい。小学校との近さもメリットとし、年長児に限らず、校庭使用について連携を図りながら、身近に感じられるようにしていきたい。○互いのカリキュラムをもとに、可能な範囲の交流から取り組んでいきたい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域 (未就園児等)との協力関係はで きているか。	○園からの便りの定期的な発行と、ホームページで園生活の様子や未就園児教室開催についても発信した。○感染症拡大状況により、活動の制限をしたり中止をしたり、登園自粛になったりし、実施できなかった行事もあったが、延期や代替案での対応で子供の大事な経験の場がなくならないよう努めた。○地域や保護者の方と連携し、登山やイチゴ苗植え、餅つきなど充実した体験ができた。エコキャップ、SDGs活動ポスター掲示について、コミセンとも連携を図り、有意義な活動をさせてもらった。	4	4	○幼稚園入園に結びつくように、園PRについても積極的にしていきたい。○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症変異株流行により、出雲市幼稚園が、夏季に長期の登園自粛となった。園行事の縮小、制限も余儀なくされ、保護者との対談、情報交換の場が少なかったことが心残りである。感染症対策を心がけ、状況によって可能な限り、保護者や地域の方との交流をし、幼児の心情など豊かな育ちにつなげていきたい。○幼児のメディアとのつきあい方について、家庭と連携して共に考えていく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研 究・研修の機会を自己研鑽の場と して受け止め、進んで研究・研修 に取り組んでいるか。	○自発的に人や環境に関わり、遊び込む幼児を育てる～幼児が遊びを見付け、願いを実現していく過程から教師の援助を明らかに～(1年次)の主題で保育実践をしてきた。幼児教育指導員を招いての園内研修や、スマイルワークとして、幼児の遊びの姿を多面的に捉え語り合う場を設け、遊びの環境構成に活かしていくことで、遊び込む姿が沢山見られるようになってきた。 ○出雲市幼稚園教育研究会東ブロック交流保育の会場園としての実践でもウーダループ【観察➡方向づけ➡意思決定➡実行】のサイクルを循環させて、子供の興味関心に則した援助を模索し、保育の引き出しが増え、子供の豊かな体験にもつながってきていると思う。	4	4	○日々の保育実践における悩み等が気軽に語り合える教職員集団となるよう、スマイルワーク(子供を語る会)を継続していく。 ○今年度は、オンライン研修が多かったが、積極的に参加し必要な情報を得たり、意見交換の場があったり、視野を広げることができた。今後も、各種研修会、研究会に参加し、学び得たことを共有し、指導力を高める努力をする。また、幼児教育指導員等を招いての園内研修も継続していきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計 画的に園務を遂行しているか。	○各担当は、早めの計画、全職員への周知を心がけている。勤務時間の異なる補助教諭とは、学級内で伝達したり、書面で報告したりし、共通理解を図れるように心がけている。○会計や報告等、期限を意識し、計画的に実施するように声をかけ合ったり、職員会や終礼時等に確認を行っている。	3	3	○今後もコミュニケーションの促進を図り、職場の活性化や雰囲気作りにも努める。職員間での速やかな連携について工夫する。○提出期限、他関係機関などとの兼ね合いを意識し、引き続き、各自での管理はもちろん、声をかけあって、計画的に実行するようにしていく。効率的な事務処理の仕方についても協議し改善していく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛 生の管理体制を全教職員が理解 し、適切な対応に努めているか。	○定期的に避難訓練や防犯教室を行い、危機管理についての意識を高めている。○今年度は、園の安全面強化とし、川跡商工振興会から防犯カメラの寄贈があった。水害時の避難先、避難経路について、小学校と連携して職員同士で確認をした。引渡し訓練では、保護者へのメール送信、開封状況を確認した。 ○感染症拡大防止とし、子供、家族の健康チェックを推進、施設消毒等も細めに行った。行事のもち方を検討し、安心安全に気持ちよく参加できるような実施を心がけた。	4	4	○毎月の安全点検を複数で行い、多面的に危険箇所を確認できるようにする。園からの緊急メールが、確実に行き届くよう、開封状況を確認したり、保護者には随時メール確認をしてもらえるよう呼びかける。火災・地震・引渡し訓練後は、職員で振り返りを行い、予想される危険について考える。 ○感染症等については、情報収集をし保護者にも周知していく。引き続き、施設消毒等、衛生面で職員一丸となって徹底していく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備 を定期的に点検し、必要な改善・ 管理を行っているか。	○毎日、日直が出退勤時に巡視確認をしている。 ○毎月の安全点検を行っている。扉や鍵など、日頃使用頻度の高い箇所に劣化が見られ取替や修繕することがあった(トイレ、保育室扉修理。)北側駐車場の路面ペンキが薄くなり、駐車時に車庫を確認しづらく、全面塗り替えを依頼した。	4	4	○今後も定期点検(複数の目で確認)を継続し、不備があれば迅速に対応する。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する

※スマイルワーク...本年度の研究の方法 幼児の姿、遊びの様子を多面的に捉え、次への援助、環境構成について語り合う。子供を語る場。